

目に見えないが、余命を安楽に過ごすため援助はとくに慢性疾患の多い内科に於てこれからの大きな課題である。これを機会にこれからの看護に積極的に取り組んでいきたいと思う。

## 〔特発性心筋症の患者〕

発表者 渡辺 けさ子

小田内科一同

### 1 はじめに

しばしば発作をくり返し、特に食事が発作の誘因と患者自身恐怖を持っていることから、食事の進め方に焦点を会せ発表します。

### 2 患者紹介

○田○雄 男性 会社員(配管業に従事)

家族は妻、子供3人健在、経済的には奥さんがお努めをし、3人の子供を育てており今のところ一樣安定している状態、同胞7人のうち2人が心ぞう病にて死亡、1人が原因不明にて死亡しています。

### 3 経過

5年程前、目まいあり瞬間的意識消失になったことあり、この時低血圧を指適され諏訪日赤で治療を受けた。

昨年11月腹部膨満感強く、動悸、息切れ出現。12月27日突然動悸が現れ、目まい冷感あり立っていられなく開業医で注射を受け30分程で障害はとれた。

本年2月になり3日程続けて、発作があったので2月20日当外来を訪れ3月25日入院。6月28日退院。しばらく落付いていたが7月12日家の掃除をしていたところ目まいあり、腹部がしめつけられる様な感じがした。その後発作が時々みられるので、7月25日再入院となる。

### 治療

1) プレドニン20mg ギルリトマール3錠 他消化剤の内服

2) 5%オイトリット500+ストラゼ100mg  
ソリタT2号500mg 点滴

3) 発作時 アミサリン 内服  
低血圧時・・・カルニゲン  
不安時・・・10%フェノバル

### 目標

発作の誘因をとり除き発作を予防する。

看護上の問題点と具体策

問題点	具体策
①食事が発作の誘因	<p>心肥大強度にて食事が食道を通過する際、心ぞうりに刺激を与え、このため発作の誘因を考えられる。食事をするとその直後か少し時間をおいて発作が起るようになり、そのため患者は食事に対して神経質になり、空腹感があっても食事をすることを、こわがるようになり、ほとんど摂取出来なくなりました。この様な拒否状態から患者の不安をとり除き、いかに与えたらよいか色々工夫し、安定剤投与後味噌汁を与え様子をみながら2時間後また半分与え、バナナ1本を頂くにもこの方法で与えましたが、この時の患者の不安はもちろん看護婦の立場としても発作は起きないという保証は全くなく、もし起きたらという不安は強く状態の観察には神経を使いました。又食事時間、食事量も状態に応じてまちまちとなるため、いつでも摂れるよう、パン食にしたり、刺激がより少なく消化しやすいようにと流動食から始めました。</p>
②発作が時々起る	<p>先ず発作の前徴候、例えばめまい胃部不快感、脈博に不整結代の強度出現等のことから、それぞれの症状の観察に留意し、発作時は直ちにアミサリン2～4錠の内服、<math>O_2</math>吸入、血圧測定、脈博、呼吸の状態を観察し又大部屋のためカーテンでしきることにより他の患者の動揺に注意した。</p> <p>20～30分でおさまる時もあり長く続く時にはアミサリン内服を追加投与し1日最高10錠まで与えています。</p> <p>患者も発作に対して自分なりに心得て起りそうだと思うと上腹部を圧迫することや、アミサリン内服を早目にすることにより比較的軽い発作ですむようになりました。対象的なことは医師の指示に従い施行。</p>
③不安感	<p>発作に対する不安が一番強いので、常時アミサリン2錠を指示により手渡してあり不安を除くと同時に<math>O_2</math>の用意、ブザーはいつでも押せるようにし、夜間の状態観察は特に密にし、時には安定剤投与す。</p> <p>患者も神経質になっており、脈をいつでもとれるよう腕を出して眠っている状態です。</p>
④安 静	<p>絶対安静の時期をこして、発作がおさまりつつある頃より状態に応じ第一段階として離床を考え。次は気分転換もかねてベットより降りて立つことから始め自信をつけさせるようにさせました。</p>
⑤胃部不快腹満感	<p>消化しやすい食事を与え、消化剤投与。便秘がちにて下剤投与、時には浣腸施行。</p> <p>ステロイド服用しているため潰瘍も考えられますが今のところBa透視不可能にて確められていません。</p>

以上要点のみまとめて見ました。原因が不明であり、如何に一般状態が落付いて居るかとも見えても突発的に発作を起す事を念頭におくべきと思われます。例えば前回の退院予定前日に何等誘因なくして異私感を伴ふと同時に顔面蒼白チアノーゼ異常呼吸、勿論脈博解れず、突作に居合せた看護婦が大声で急を告げる事に依り医師、看護婦等とのよきチームワークで充分の処置が出来得た事は人

命を預かる私共の業務上に重要な事である事を痛感致しました。

どんな場合にも、対処出来る様に1人1人がその心構えを常に身に付けるべきでしょう。

尚、現況は患者が自信も付き、7分粥を摂取、その上自分に応じた間食迄する様になりました。

絶対安静が解け、1日4～5回のトイレ及、洗面が許可され、日増しに快方に向いつつある事は患者と共に喜び度い現在であります。